

思いやりの心

——札幌発特急寝台列車エルム号にて——

北海道の研修旅行も、本年度をもって暫く休止することになった。一抹の寂しさを禁じ得ないが、しかし、本年度参加した学生たちが素晴らしいフィナーレを飾ってくれて、私は、今すがすがしい気持ちになっている。

それは、比治山の旅行団に乗せた札幌発特急寝台列車エルム号が、終着駅上野に到着しようとする時であった。

皆さん、間もなく上野駅です。長の旅、ご苦労様でした。殊に、北海道での研修を終えてお帰りの比治山女子短大の学生の皆さん、お疲れ様でした。皆さんの車中でのマナーのよさには感心しました。どうぞ、ご無事で、広島まで帰られますよう、お祈り致します。



平成5年3月比治山女子短期大学謝恩会風景

というような内容の放送が車内に流れたというのである。私は、このことを、旅行に参加した学生から聞き、心が高鳴る程嬉しさを覚えたのである。学生たちは、特別の意識でよそ行きの行動をしたのではあるまい。ただ、おしゃべりはしてもはた迷惑にならないよう気くばりをし、物を食べても包み紙やたばかすをまき散らしたりはしないよう心掛けるといった、ふだんと変わらない行動であったと思う。にもかかわらず、エルム号の車掌さんを感じさせたのは、学生たちの行動に、他人を思いやる温かさを感じられたからではなからうか。私もまた、そうした温かい思いやりの心が、自然に学生たちの立ち居振る舞いに表れていたということに、喜びと嬉しさを覚え、すがすがしく思ったのであった。

さて、今年の大学祭統一テーマは、Freedom——私たちの時代がきた——に決まったと聞いた。二一世紀を目前にした今の時代を、「私たちの時代」と受けとめ、人間らしく生きられる社会の実現に意欲を燃やしている諸姉に、私は、大いなる期待をし、また拍手を送りたいと思っている。

「私たちの時代」、それは、他人を思いやる温かい心が基盤になければ、決して、自他共に人間らしく生きられる時代とはならないであろう。しかし、講師には、あの北海道研修旅行で見せてくれたように、その心がおのずからに身についているはずである。どうぞ、他人を思いやる温かい人間愛の心で、素晴らしい新時代を招来するよう努めていただきたいと、私は念願している。